患者さん・ご家族向け

ゼルヤンツ（潰瘍性大腸炎治療薬）情報サイト

https://www.xeljanz.jp/uc/index.html

医療機関名

ファイザーは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

XUC57H002E

ファイザー株式会社

2023年5月作成

医薬品リスク管理計画（RMP）

本資材は医薬品リスク管理計画に基づき作成された資材です

ゼルヤンツ®を服用される患者さんとご家族の方へ

潰瘍性大腸炎

監修：日比 紀文 先生

（北里大学北里研究所病院
炎症性腸疾患先進治療センター 特別顧問）

はじめに

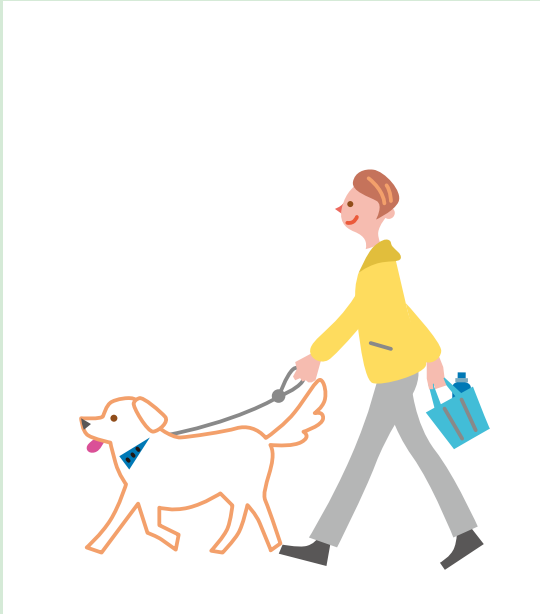
潰瘍性大腸炎はクローン病とともに「炎症性腸疾患」と呼ばれる慢性の炎症性疾患で、厚生労働省で「難病」に指定されています。炎症性腸疾患は従来、欧米諸国に患者さんが集中しており、わが国では希少疾患と考えられていました。しかし、近年では患者さんの数が急激に増加し、現在では潰瘍性大腸炎患者さんの数は国内で20万人以上といわれ、今後も患者さんは増え続けると考えられています。
潰瘍性大腸炎は、発症原因は不明で完治させることは難しいと考えられていましたが、近年、様々な治療法の発展により、多くの患者さんを就学・就業など普通の生活を送ることができる「寛解」と呼ばれる状態にすることができるようになりました。ただし、潰瘍性大腸炎は一度「寛解」になっても、再燃することも多いため、「寛解」を維持するための治療を行い、再燃を予防することがとても大切です。

潰瘍性大腸炎の治療薬ゼルヤンツは、体の免疫システムの異常に働きかけて炎症を抑える飲み薬です。粘血便や排便回数などの症状を改善し、「寛解」へ導いたり、寛解を維持することができると考えられています。
ただし、ゼルヤンツの服用で免疫の働きが低下し、副作用として重い感染症（肺炎、帯状疱疹、結核など）が発現したという報告もあり、注意が必要です。
また、ゼルヤンツを服用した患者さんは、服用しなかった患者さんや他の治療法（TNF阻害剤の投与）を受けている患者さんに比べ悪性腫瘍の発現率が高いという報告があります。心血管系事象はゼルヤンツを服用した患者さんでは他の治療法（TNF阻害剤の投与）を受けている患者さんよりも発現率が高いという報告もあります。

より安全に効果的な治療を続けていくためには、医師に指示された用法・用量を守り、定期的に受診することが必要です。また、いつもと違う症状に気づいたら服用をやめてすぐに医師に相談できるよう、副作用の症状を理解しておくことが大切です。本冊子をよくお読みいただきゼルヤンツによる治療をご理解いただいたうえで、「寛解」を維持するという目標に向かって治療を進めていきましょう。

潰瘍性大腸炎について

- どんな病気?
- 治療の目標は?
- 治療方法は?



どんな病気?

潰瘍性大腸炎は、体の外から入ってくる細菌やウイルスなどの病原体から体を守る働きをする免疫システムがなんらかの異常をきたし、種々の炎症が次々に引き起こされる「免疫異常疾患」の1つと考えられています。
直腸から始まり広範囲にわたる大腸の粘膜に炎症がおこり、そのため粘血便、下痢、腹痛、軟便などの症状がみられるようになります。

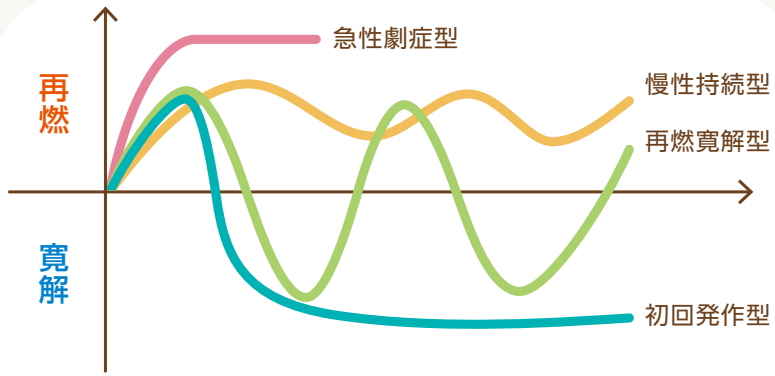
潰瘍性大腸炎の主な症状

発症原因は不明で完治させることが難しいと考えられていましたが、現在では研究や治療薬の開発が進み、発症早期から適切な治療を行うことで、潰瘍性大腸炎の症状がなくなり、普通の生活を送ることができる「寛解」という状態にすることができるようになりました。ただし、一度「寛解」になっても、再燃することも多いため、「寛解」を維持するための治療を行い、再燃を予防することがとても大切です。

治療の目標は?

潰瘍性大腸炎は、「寛解」と腹痛や下痢・血便などの症状が再発した状態の「再燃」を交互に繰り返すことが特徴です。
潰瘍性大腸炎の治療で最も大切なことは、なるべく早く「寛解」の状態にして、その期間をできるだけ長く保つことです。

普通の生活を送るためには、「寛解」の時期をできるだけ長く保てるよう、しっかりと治療を続けることがとても重要です。



潰瘍性大腸炎の臨床経過

潰瘍性大腸炎は、基本的に薬物療法や血液中の過剰な白血球を取り除く血球成分除去療法などの内科的な治療を行いますが、重症の場合や重大な合併症（大腸がんなど）がある場合には外科手術を行います。薬物療法は、大腸の粘膜の状態（びらんや潰瘍などの範囲）や重症度（症状や炎症の強さ）によって、用いられる薬や投与の方法が異なります（内科的な治療の詳細は次ページへ）。

＼ 治療方法は？ ／

潰瘍性大腸炎の薬物治療では、主に「免疫システムの異常に働きかける薬」と「炎症を抑える薬」が用いられます。ゼルヤンツは、「免疫システムの異常に働きかける薬」の中のJAK阻害剤という種類の飲み薬です。また、飲み薬ではありませんが炎症を起こす白血球を血液中から取り除く血球成分除去療法を用いることもあります。

免疫システムの異常に働きかける薬

JAK阻害剤	炎症を引き起こすいろいろな種類の「炎症性サイトカイン（▶6ページ参照）」の働きを抑え、大腸の出血や排便回数を抑える飲み薬です。
抗α4β7インテグリン抗体製剤	炎症を引き起こす白血球の働きを抑え、大腸の炎症を抑える点滴の薬です。
TNF阻害剤	特定の炎症性サイトカイン（TNFα）の働きを抑え、大腸の出血や排便回数を抑える点滴や注射の薬です。
抗IL-12/23抗体製剤	特定の炎症性サイトカイン（IL-12,23）の働きを抑え、大腸の出血や排便回数を抑える点滴や注射の薬です。
免疫抑制薬（カルシニューリン製剤）	異常な免疫の働きを抑え、大腸の炎症を抑える薬です。
免疫調節薬（チオプリン製剤）	異常な免疫細胞の数を調節し、大腸の炎症を抑える薬です。

炎症を抑える薬

5-ASA（5-アミノサリチル酸）製剤	大腸の炎症を抑える薬です。多くの患者さんは、症状の改善と寛解維持を目的に服用します。
ステロイド	大腸の炎症を強力に抑える効果があります。潰瘍性大腸炎の症状が中～重症の場合、5-ASA製剤で症状が治まらない場合に使う薬で、症状によって飲み薬と注射や座薬を使い分けます。免疫システムの異常に働きかける薬で症状が治まらないときにも使用しますが、長期間使用する薬ではありません。

その他の治療法

血球成分除去療法（LCAP、GMA）	血液を腕の静脈から体外循環させて、特殊な筒に血液を通過させることにより、特定の血液成分（主に白血球の成分）を取り除く治療法です。顆粒球・単球・リンパ球を取り除くLCAPと、顆粒球・単球を取り除くGMAがあります。

ゼルヤンツについて

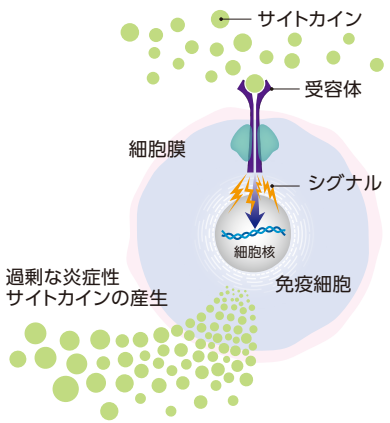
- ゼルヤンツの作用
- ゼルヤンツの効果
- ゼルヤンツであらわれる可能性のある副作用
- ゼルヤンツによる治療にかかわる主な診察項目
- 治療前と治療中のセルフチェックリスト
- ゼルヤンツの服用方法
- ゼルヤンツと相互作用のある薬や食品

ゼルヤンツの作用

<治療前>

潰瘍性大腸炎の原因は不明ですが、近年の研究から遺伝的な素因と、食事やストレスといった環境的な因子を背景として、過剰な免疫応答により発症すると考えられています。

過剰な免疫応答の１つに、消化管における炎症性サイトカインの過剰な産生があるといわれています。サイトカインが免疫細胞の受容体（受け皿のようなもの）に結合すると、細胞の中の伝達経路を通ってシグナルが送られ、炎症性サイトカインが過剰につくられます。さらに免疫細胞が集められたり（遊走）、炎症を悪化させ大腸の出血や下痢などの潰瘍性大腸炎の症状を引き起こしたりします。

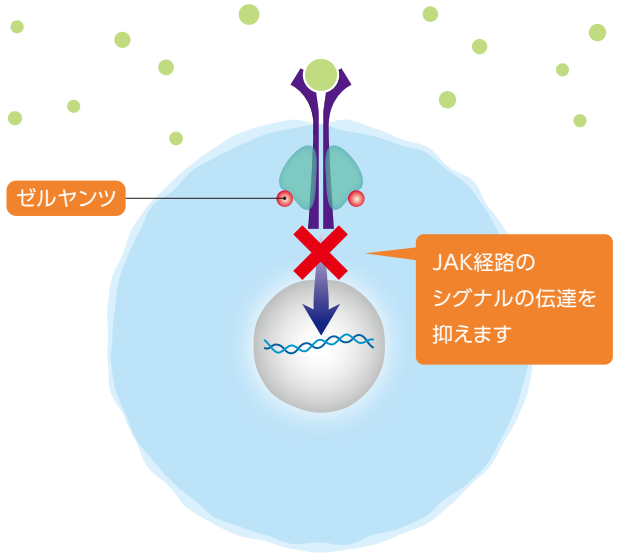


過剰なサイトカインが炎症を引き起こすシグナルを送ることで、
腸粘膜の炎症がおこります。

サイトカイン：細胞は変化するとき（増殖したり分化したりなど）、周りの細胞とコミュニケーションをとっています。その際、情報伝達を行う分子がサイトカインです。サイトカインは体の免疫反応をつかさどる重要な物質ですが、過剰に産生されると炎症などを引き起こす原因にもなります。

<治療後>

ゼルヤンツは、サイトカインの過剰な産生を抑えます。これは、細胞の中にいくつかある伝達経路のうちのJAK経路をゼルヤンツが阻害することで、免疫細胞の遊走や炎症性サイトカインの産生を促すシグナルを抑えることによるものです。



ゼルヤンツは、シグナルの伝達を抑えます。

ゼルヤンツの効果

潰瘍性大腸炎の治療で最も大切なことは、なるべく早く寛解に導き、
その期間を長く維持することです。
ゼルヤンツの服用により、このような効果が期待されます。

- 大腸の炎症が抑えられ、血便や下痢の回数の減少や粘膜の状態が改善
- 寛解状態の維持

ゼルヤンツであらわれる可能性のある副作用

ゼルヤンツの効果を発揮し、副作用のリスクを最小限にするためには、副作用の症状にできるだけ早く気づくことが大切です。
以下の症状に続き、重い副作用があらわれる可能性があります。
体調の変化を記録し、**症状に気づいたら服用をやめ、すぐに医師に相談してください。**

特に注意すべき症状

※注意すべき副作用/特徴的な症状は、12～15ページを参照ください

<感染症>
- 発熱（高熱、長引く微熱など）
- 咳、から咳
- 息苦しい
- のどの痛み
- 身体がだるい

<帯状疱疹>
- 痛みを伴う発疹
- しびれ

<肝機能障害、B型肝炎>
- 食欲低下

<ヘモグロビン減少>
- 息切れ
- めまい、ふらつき

<消化管穿孔>
- 激しい／持続性の腹痛
- 胃の痛み

<静脈血栓塞栓症>
- 皮膚・唇・手足の爪が紫色になる

<悪性腫瘍>
- 長引く咳・痰／血痰／胸痛
- リンパ節の腫脹
- 微熱／全身倦怠感
- 体重減少

<心血管系事象>
- 胸の痛み／圧迫感／しめつけ感／胸やけ
- 肩・背中・胸などの痛みが繰り返し起こる

注意すべき副作用には次のようなものがあります。
重い副作用を防ぐために、副作用についてしっかりと理解して、早めに対応できるようにすることが大切です。

感染症
- 結核、肺炎、ニューモシスチス肺炎、敗血症、日和見感染など
- 帯状疱疹

肝機能障害

好中球減少、リンパ球減少

ヘモグロビン減少

消化管穿孔

間質性肺炎

悪性腫瘍

B型肝炎ウイルスの再活性化

心血管系事象

横紋筋融解症

ミオパチー

静脈血栓塞栓症

この他にも気になる症状があらわれた場合には、医師にご相談ください。

注意すべき副作用 1

感染症

・結核、肺炎、ニューモシスチス肺炎、敗血症※、日和見感染など

※敗血症：病原性の細菌が血液の中に入って全身に広がり、菌が増えた状態

治療が遅れると命にかかわることがあるため、
症状に気づいたら服用をやめ、すぐに医師に相談してください。

特徴的な症状

- **風邪のような症状**
  （発熱、咳（から咳）、息苦しい、のどの痛み、身体がだるいなど）

ゼルヤンツにより免疫の働きが低下するため、感染症にかかりやすくなります。
とくに高齢の方は感染症にかかりやすい傾向があるため、体調の変化に注意してください。
感染症予防のために、日ごろから手洗いやうがいを心がけてください。

感染予防のための手洗い：潰瘍性大腸炎患者さんは、ステロイド薬、免疫調節／抑制薬などにより感染症にかかりやすくなっており、感染症のコントロールが日常生活において非常に重要です。とくに、手指が感染を媒介することがあるため、日ごろから手洗いの習慣をつけるようにしましょう。

・帯状疱疹（たいじょうほうしん）

帯状疱疹の治療が遅れた場合には、後遺症として痛みやしびれが残ることがありますので、症状に気づいたら服用をやめ、すぐに医師に相談してください。

特徴的な症状

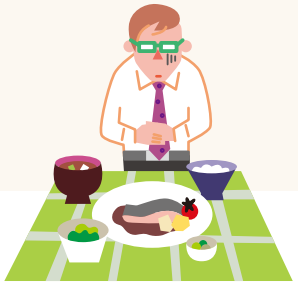
- **痛みを伴う発疹（帯状に発生することが多い）**
  ＊はじめから痛みを伴うとは限りません。
- **しびれ**

帯状疱疹は、神経に沿った帯状の赤い斑点や水ぶくれに加え、痛みが生じる疾患です。目や耳に症状が出る場合もあります。発現した場合には、抗ヘルペスウイルス薬を用いて帯状疱疹の原因であるウイルスの増殖を抑え、痛みを和らげる治療を行います。

注意すべき副作用 2

肝機能障害、B型肝炎

重症化する場合がありますので、症状に気づいたら服用をやめ、すぐに医師に相談してください。



特徴的な症状

- **身体がだるい、食欲低下**
- **発熱**
- **皮膚や白目が黄色くなる**

このほか、血液検査で肝機能検査値（AST、ALTなど）が上昇することがあります。
B型肝炎ウイルスキャリアの方は、ウイルスが再活性化することがあります。

注意すべき副作用 3

好中球減少、リンパ球減少

症状に気づいたら服用をやめ、すぐに医師に相談してください。

特徴的な症状

- **口内炎**
- **突然の発熱**
- **さむけ**
- **のどの痛み**

ゼルヤンツにより、体内に入った細菌を殺す好中球や、免疫を調節する働きのあるリンパ球の数が減ることがあります。定期的に受診し、検査値を確認するとともに、普段と異なる症状に気づいたら服用をやめ、すぐに医師に相談してください。

注意すべき副作用 4

ヘモグロビン減少

鉄分で改善される一般的な貧血とは原因が違います。
息切れやめまいなどの症状に気づいたら医師に相談してください。

特徴的な症状

- **息切れ、めまい**

ヘモグロビンは、酸素を運ぶ赤血球のタンパク質です。赤血球のヘモグロビン量が少なくなると、血液は酸素を十分に供給できなくなります。組織に酸素が十分に供給されないと、貧血の症状があらわれます。ここでいう貧血は、血液中の赤血球が減少している状態です。「鉄欠乏性貧血」とは違い、サプリメントなどで鉄分を補っても改善しないため、症状に気づいたらすぐに医師にご相談ください。

この他にも気になる症状があらわれた場合には、医師にご相談ください。

注意すべき副作用 5

消化管穿孔（しょうかかんせんこう）

緊急手術が必要な場合もありますので、症状に気づいたら服用をやめ、すぐに医師に相談してください。

特徴的な症状

消化管穿孔の症状

- 激しい腹痛
- 突然おこり、その後持続する腹痛

消化管穿孔に至る可能性がある症状

- 胃の痛み
- 空腹時のみぞおちの痛み
- 黒色便

消化管穿孔は、消化管に何らかの原因で穴があくものです。腸管憩室※を指摘されたことがある場合には、消化管穿孔になりやすいと考えられていますので、必ず医師にお伝えください。また、消化管穿孔に至る前に、胃の痛みなどの症状があらわれることがありますので、症状に気づいたらすぐに医師に相談してください。

※腸管憩室：腸管の壁の一部が袋状に膨らんだもの

注意すべき副作用 6

間質性肺炎

症状に気づいたら医師に相談してください。

特徴的な症状

- 痰のからまないから咳
- 息切れ
- 呼吸困難感
- 発熱

間質性肺炎は、肺胞という肺の中の一番小さな部屋の壁に炎症がおこった状態です。
いつもと違う息苦しさや、全身の強いだるさを感じることがあります。

注意すべき副作用 7

悪性腫瘍

症状に気づいたら医師に相談してください。

特徴的な症状

- 長引く咳・痰
- 血痰
- 胸痛
- リンパ節の腫脹
- 微熱
- 全身倦怠感
- 体重減少

ゼルヤンツを服用した患者さんは、服用しなかった患者さんや他の治療法（TNF阻害剤の投与）を受けている患者さんに比べ悪性腫瘍の発現率が高いという報告があります。徴候および症状があらわれた場合は主治医に相談してください。また、定期的にがん検診を受診し、結果を主治医の先生に報告しましょう。

注意すべき副作用 8

心血管系事象

症状に気づいたら医師に相談してください。

特徴的な症状

- 胸の痛み
- 圧迫感
- しめつけ感
- 胸やけ
- 肩・背中・胸などの痛みが繰り返し起こる

ゼルヤンツを服用した患者さんは、他の治療法（TNF阻害剤の投与）を受けている患者さんに比べ心筋梗塞等の心血管系事象の発現率が高いという報告があります。また、血圧やコレステロールの値が上昇することがあります。徴候および症状があらわれた場合は主治医に相談してください。

注意すべき副作用 9

静脈血栓塞栓症

症状に気づいたら医師に相談してください。

特徴的な症状

- 皮膚、唇、手足の爪が青紫色になる
- 発熱、下肢のはれ、むくみ、痛み
- 息苦しさ、胸の痛み、呼吸がはやくなる

深部静脈内に血のかたまり（血栓）ができる「深部静脈血栓症」と、この血栓の一部が血流にのって肺に流れて血管が詰まる「肺血栓塞栓症」があります。深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症は、「静脈血栓塞栓症」と総称されます。徴候および症状があらわれた場合は主治医に相談してください。

注意すべき副作用 10

横紋筋融解症、ミオパチー

症状に気づいたら医師に相談してください。

特徴的な症状

- 筋肉痛
- 全身のだるさ
- 尿の色が赤褐色になる

クレアチンホスホキナーゼ（CPK）という酵素の値が上昇することがあります。

ゼルヤンツ服用時の悪性腫瘍や、感染症などの重篤な副作用については、詳しく調べるための調査を実施中です。

この他にも気になる症状があらわれた場合には、医師にご相談ください。

ゼルヤンツによる治療にかかわる主な診察項目

ゼルヤンツによる治療を開始する前に、診察を行い、ゼルヤンツによる治療が適切か、また副作用があらわれやすい状態ではないかなどを、必要に応じて検査をして確認します。
治療開始後も、治療の効果を調べたり、副作用を早めに発見するために、医師の指示にしたがって定期的に診察を受けてください。

診察

主な項目

- 排便の回数、発熱、脈拍数
- せき、息切れなどの問診

体調、薬の効果、他の病気や副作用などの徴候がないかを調べます。

血液検査

主な項目

- 好中球※1、リンパ球、ヘモグロビン、コレステロール、血小板
- 炎症の指標（CRP、血沈※2）
- 栄養の状態（アルブミン）
- 腎臓の働き（クレアチニン）
- 肝臓の働き（AST、ALT）
- B型肝炎ウイルス

炎症の程度、栄養状態、他の病気や副作用などの徴候がないかなどを調べます。

※1 好中球：白血球のうちのひとつ。細菌感染や真菌感染に対する身体の主要な防御機構として働きます。
※2 血沈：赤血球沈降速度（赤沈ともいいます）。

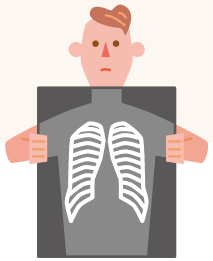
尿検査

主な項目

- 尿タンパク
- 尿糖 など

他の病気や副作用等の徴候がないかを調べます。

X線検査



主な項目

- 胸部X線撮影

結核など肺の病変がみられないかを調べます。

画像検査

主な項目

- 大腸内視鏡検査

大腸の粘膜の状態（びらんや潰瘍などの範囲）や重症度（症状や炎症の強さ）を調べます。

検便

主な項目

- 便潜血

潰瘍性大腸炎の重症度を調べます。

治療前と治療中のセルフチェックリスト

以下に該当する方は、ゼルヤンツによる治療が適切ではない場合や副作用があらわれやすい場合があります。
より安全に治療を行うために、少しでも思い当たる場合には必ず問診時に医師にお伝えください。
ゼルヤンツによる治療を開始した後も、受診のたびにチェックし直すことが大切です。

治療前のセルフチェックリスト

以下に該当する場合、ゼルヤンツによる治療を受けることができません。

- ☐ ゼルヤンツを飲んでアレルギー症状が出たことがある
- ☐ 重篤な感染症の症状（敗血症）がある
- ☐ 活動性結核※1
- ☐ 重度の肝機能障害がある
- ☐ 血液検査で好中球数が500/mm³未満およびリンパ球数が500/mm³未満
- ☐ 血液検査でヘモグロビン値が8g/dL未満
- ☐ 妊娠中または妊娠している可能性がある

以下に該当する場合、医師に相談しましょう。

- ☐ 結核にかかったことがある、または、身近に結核にかかった人がいる
- ☐ 感染症にかかりやすい状態：糖尿病、免疫抑制剤や抗がん剤を投与中など
- ☐ 腸管憩室※2を指摘されたことがある
- ☐ 肝機能または腎機能の低下を指摘されたことがある
- ☐ 授乳中である
- ☐ 心血管系事象のリスク因子がある（喫煙、高血圧、糖尿病、冠動脈疾患※3の既往等）
- ☐ 脂質異常症（コレステロールや中性脂肪が多過ぎる病気）
- ☐ 現在、服用中のお薬がある
  お薬の名前（　　）
- ☐ 生物学的製剤および免疫抑制剤の投与を受けている
- ☐ B型肝炎ウイルスキャリアまたは感染歴がある

※1 活動性結核：結核菌が活動し発病している状態
※2 腸管憩室：腸管の壁の一部が袋状に膨らんだもの
※3 冠動脈疾患：心筋梗塞、狭心症など

治療中のセルフチェックリスト

以下に該当する場合、医師に相談しましょう。

- ☐ 咳、発熱など肺炎の症状がある
- ☐ から咳、息苦しさなど間質性肺炎の症状がある
- ☐ 身近な人で結核にかかった人がいる
- ☐ 悪性腫瘍がみつかった
- ☐ 身体がだるい、食欲低下など肝炎（とくにB型肝炎）の症状がある
- ☐ 痛みを伴う発疹、しびれなど帯状疱疹（ヘルペスウイルスによる皮疹）の症状がある
- ☐ 他の診療科や医療機関を受診した、または、これから受診する注
- ☐ 血球減少と指摘された
- ☐ 肝機能障害と指摘された
- ☐ 胸の痛み／圧迫感／しめつけ感／胸やけの症状がある
- ☐ 肩・背中・胸などの痛みが繰り返し起こる

注 他の診療科や医療機関にかかるときには、医師にゼルヤンツを服用していることを必ずお伝えください。

ゼルヤンツの服用方法

寛解導入療法では、通常、**1回2錠を1日2回で8週間**服用します。なお、効果が不十分な場合にはさらに8週間服用することができます。
寛解維持療法では、通常、**1回1錠を1日2回**服用します。なお、寛解維持療法中に効果が弱まった患者さんでは、1回2錠に増やすことができます。
また、過去の薬物治療において難治性の患者さん（TNF阻害剤が無効だった場合など）では、1回2錠を1日2回服用することができます。
患者さんの状態によって、服用量を調節することがあります。必ず医師の指示にしたがって服用してください。

錠剤
（実物大）

PTPシート
（PTPシートの写真は実物大ではありません。）

指示どおりに服用しなかった場合、重い副作用につながるおそれがあります。

服用するときに気をつけること

- シートから取り出して服用してください。
- コップ1杯以上の水やぬるま湯と一緒に服用してください。
- グレープフルーツジュースと一緒に服用するとゼルヤンツの作用が強くなることがありますので、**一緒に飲まない**でください。

- 服用し忘れた場合、気がついた時点で1回分を服用し※、翌日からは通常どおり1日2回服用してください。**2回分をまとめて服用しない**でください。
  ※次の服用を予定している時点まで6時間以上の間隔をあけてください。

服用中の生活で気をつけること

- **治療開始前と比べて体調に変化がないか気をつけましょう。**
- 気になる症状があらわれた場合には、**服用をやめ、すぐに医師にご相談ください。**
- 他の診療科や医療機関にかかるときには、**医師にゼルヤンツを服用していることを必ずお伝えください。**
- **妊娠中は服用できません。**
  妊娠可能な方は、投与中および投与終了後少なくとも1月経周期は、適切な避妊を行ってください。
  妊娠を希望される場合にはあらかじめ医師にご相談ください。
- **予防接種の予定がある場合には医師にご相談ください。**
  種類によって接種できないものがあります。

服用に関して不明な点がある場合は、必ず医師または薬剤師にご相談ください。

ゼルヤンツと相互作用のある薬や食品

ゼルヤンツには、一緒に服用するときに注意が必要な薬や食品があります。
他の医療機関で診察を受ける際には、ゼルヤンツを服用していることを必ずお伝えください。
また、他の医療機関で処方された薬があれば、必ず医師にご相談ください。

ゼルヤンツを服用するときに注意が必要なお薬・食品

● 抗生物質
(かぜや肺炎など細菌感染症のとき)
マクロライド系抗生物質(クラリスロマイシン、エリスロマイシンなど)、およびノルフロキサシンなど

● グレープフルーツ
(ジュースも含む)

● 抗真菌薬
(水虫やカンジダなど真菌感染症のとき)
アゾール系抗真菌剤(イトラコナゾール、ボリコナゾールなど)、およびフルコナゾール

● 循環器用薬
(狭心症や高血圧、不整脈などのとき)
カルシウム拮抗剤(ジルチアゼム、ベラパミル)、アミオダロン

● ハーブ・サプリメント
セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品

新しくサプリメントを服用する際には、医師にご相談ください。

その他：シメチジン、フルボキサミン、抗HIV剤(リトナビル、アタザナビル、ネルフィナビル)、抗てんかん剤(バルビツール酸誘導体、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトインなど)、リファンピシン、リファブチン、モダフィニル

治療サポート情報

- ご家族の方へ
- 指定難病における医療費助成制度

ご家族の方へ

潰瘍性大腸炎への理解

潰瘍性大腸炎患者さんは、たくさんの不安を抱えてストレスを溜めてしまうことも少なくありません。一番身近なご家族のライフスタイルなどは患者さんの健康にも大きく影響を及ぼします。「潰瘍性大腸炎」という疾患を正しく理解し、患者さんをサポートしてあげましょう。

感染予防への理解

潰瘍性大腸炎患者さんは、免疫を弱める薬を服用されており、普段から感染症コントロールが必要です。このようなことに気をつけてあげることで、患者さんを感染症から守ってあげることができます。

POINT ご家族のための感染予防のポイント

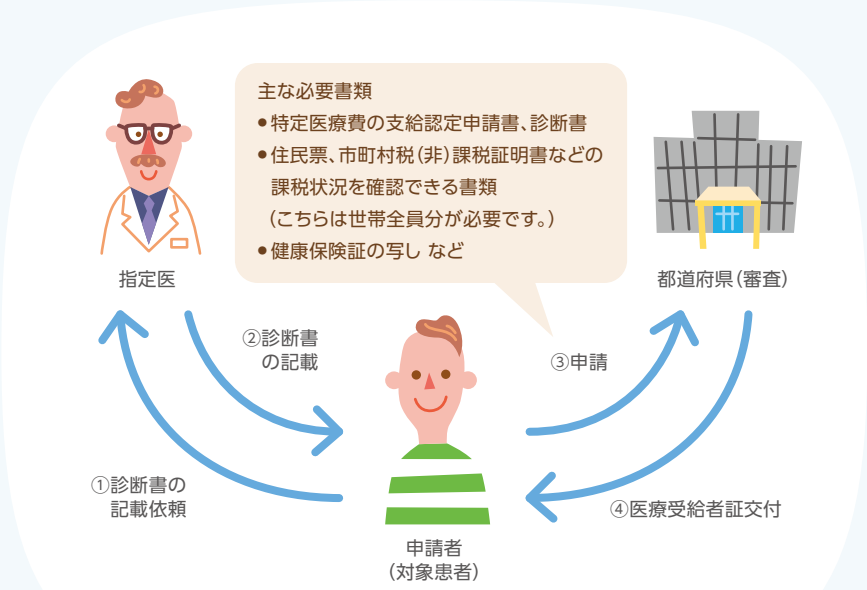
- 「手洗い」を日常的に行い、食事の前やトイレの後の手洗いは念入りに行いましょう。
- 手ふき用のタオルはこまめに交換しましょう。
- 風邪やインフルエンザにかかっている人には近づかないようにしましょう。
- インフルエンザワクチンを接種しましょう。
  また、高齢の方は肺炎球菌ワクチンの接種について、医師に相談しましょう。
- 入浴順はなるべく患者さんを先にしてあげましょう。
- ペットを触ったら必ず手を洗い、ペットと一緒の食事は避けましょう。
- ペットに顔を舐めさせないようにしましょう。

矢野邦夫：抵抗力の低下している人を感染から守る本（第1版）ヴァンメディカル:102, 2012より作成

指定難病における医療費助成制度

潰瘍性大腸炎は、「難病法」で定められた「指定難病」です。
医療費助成の対象となるのは、重症度が一定以上の患者さんや、軽症であっても高額な治療を継続する必要がある患者さん※です。

※高額な治療の継続とは、月ごとの医療費の総額が33,330円を超える月が年間3回以上ある場合をいいます。（例：医療保険3割負担の場合、医療費の自己負担がおよそ1万円となる月が年3回以上ある場合が該当します）



申請から医療受給者証交付の流れ

難病情報センターホームページより（2023年3月28日参照）
http://www.nanbyou.or.jp/entry/5460#taisho

指定医療機関および難病指定医、協力難病指定医については、お住まいの都道府県の窓口にお問い合わせください。